



令和 8 年第 3 回山元町議会定例会

総括質疑通告一覧表

令和 8 年 9 月 1 1 日

通告番号	1	10番 齋藤俊夫 議員
------	---	-------------

内 容	答弁者
1 財源確保に向けた対応策について (1) 人口1万人強規模の本町にとって、自主財源の確保はこれまで以上に重要になっており、来年4月からの消費税負担軽減措置の議論など、今後の地方財政を巡る不確実性も高まっている。 令和7年度決算を踏まえ、本町における財源確保の現状と課題をどのように認識しているのか伺う。 (2) 令和7年度を中心に、直近3か年程度で見た場合の財源確保の取組実績として、町税収納率、滞納整理の成果、ふるさと納税寄付額、基金運用収入、未利用財産の売却や貸付、広告収入、各種使用料や手数料の見直しなど、それぞれの推移と評価を伺う。 (3) 今後、大口の財政出動を控える中、従来どおりの歳入構造では限界があると考え。 今後の財源確保策として、どの分野を重点化するのか伺う。	町 長
2 ふるさと納税の確保策について (1) 本町は県内人口順位では25位規模である一方、ふるさと納税は令和3年度の約1億円、県内24位をピークに、その後は令和5年度を除くとじり貧傾向にあり、令和7年度は約3,500万円で県内30位にまで後退している。 県内全体での納税総額が延びる中で、本町が下位に低迷している現状認識を伺う。 (2) ふるさと納税が落ち込む要因は大きく、返礼品の魅力不足、ポータルサイト上での見せ方不足、寄附者への訴求不足、事業者の委託不足、庁内体制の弱さに分けるとされる。 本町では、令和7年度決算を総括する中で、どの要因が最も大きかったと分析しているのか伺う。 (3) 今の本町に必要なのは、従来の延長線上の改善ではなく、自主財源確保策としての抜本的強化だと考える。 令和8年度以降、ふるさと納税をどう立て直すのか、具体策を伺う。	町 長

通告番号	2	3番 遠 藤 龍 之 議員
------	---	---------------

内 容	答弁者
1 町民バス運行事業について 全町民を対象に、とりわけ子どもや高齢者といった「移動制約者」と呼ばれる方々の移動手段の確保を図るため、町内全域を面でカバーする「予約運行型」と、利用者が多い区間を路線でカバーする「定期運行型」の2形態の町民バスを運行してきた。 (1) 令和7年度の利用実績や運行状況をどう評価しているか。 (2) その評価を今後の事業にどのように活かそうとしているか。	町 長
2 三線堤整備事業「町戸花線」の取組について (1) 令和7年度の工事实績に対する現在の全体計画の進捗状況が、当時の事業計画に比してどう変化しているのか。 (2) 2015年度に取り組み始めた事業だが、工事の事業計画から見た遅れの要因は。	町 長